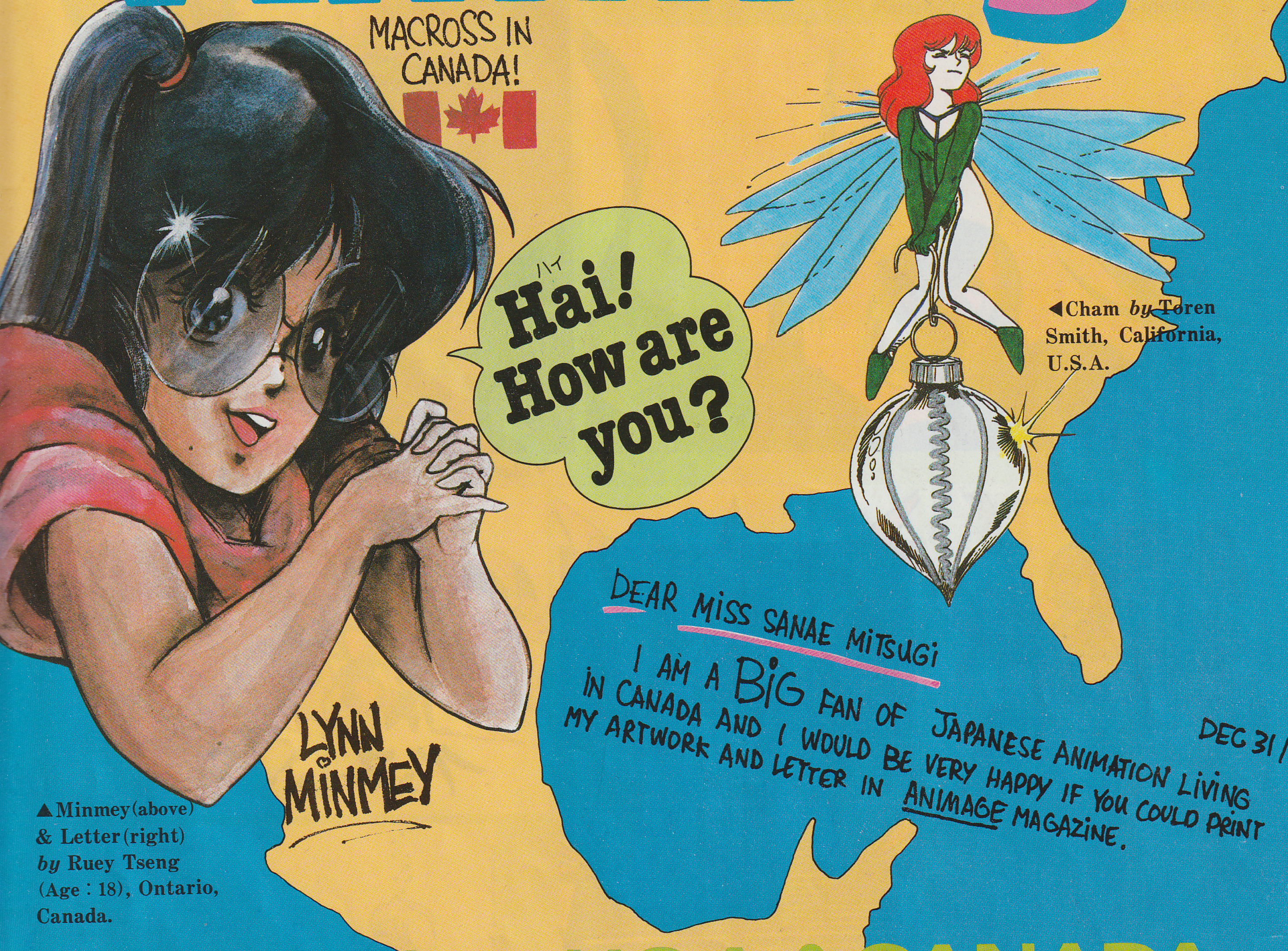
マイ・アニメージュ"北米大陸版"

My Animage

AIR MAIL

SPECIAL ISSUE



◀Cham *by* Toren Smith, California, U.S.A.

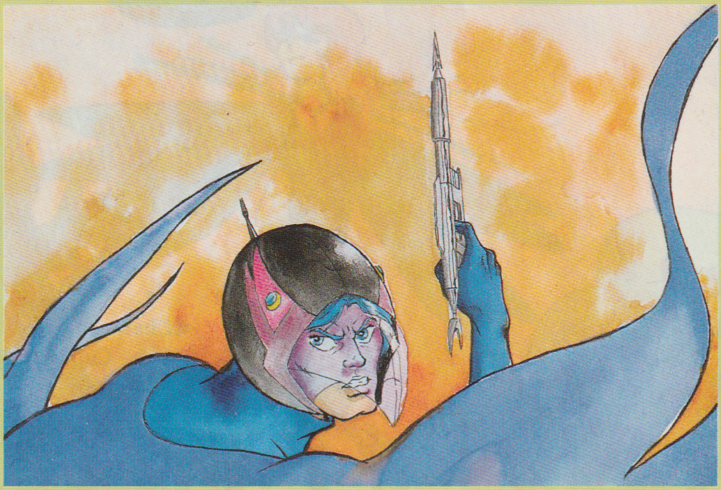
▲Minmey(above) & Letter(right) *by* Ruey Tseng (Age：18), Ontario, Canada.

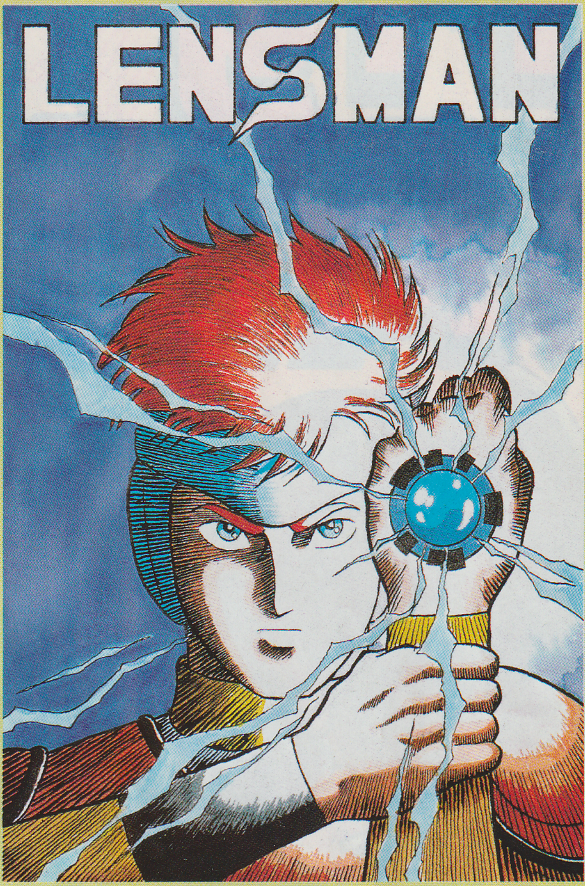
Letters from U.S.A. & CANADA

Art Gallery

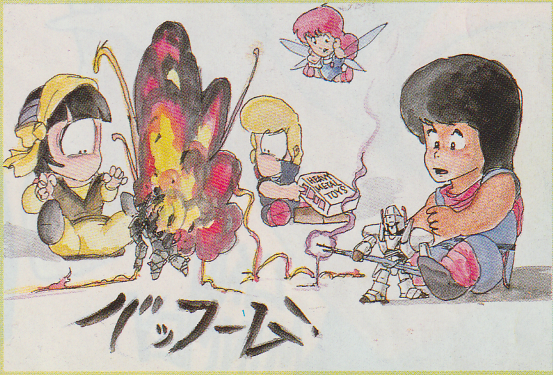
アメリカとカナダにメンバーを持つ、日本のアニメとマンガのファン組織・Cartoon／Fantasy Organizationについては、AMでも３回にわたってレポートした。(AM '84年11月・12月号、'85年1月号)そのC／FOのメンバーにAM編集部がよびかけたところ、たくさんの手紙やイラストがよせられた。今月はその大特集！　というわけで、Nihongo,English、入り乱れる、My Animage特別版を作ってみた。アメリカで日本製アニメを見ることのハンディキャップを考えると、彼らの努力はたいへんなもの。日本人にさえ難しい日本語の学習をはじめてしまう人などもいて、ファンになるのはつくづくたいへんなことだと考えさせられてしまう。その熱意が、イラストから、おたよりから、ファンジンから、ひしひしと感じられるよ。(注・原文はすべて英語でした)

▼▶**Joe** (Gatchaman:below) &**Kim** (Lensman:right) *by* Richard Johnson (Age:24)、California.



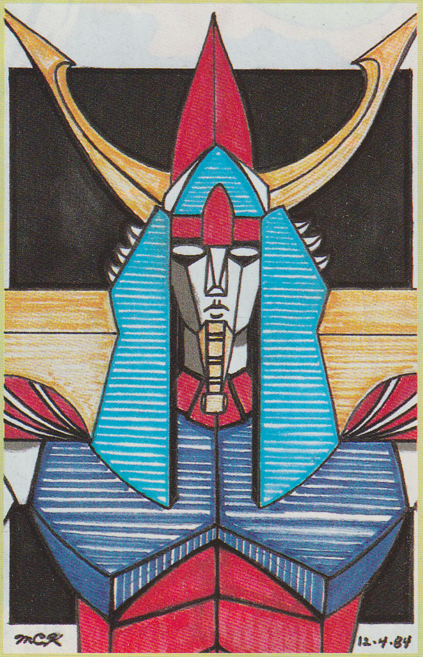


▼**Elgaim** *by* Robert Koo (17)、Ontario, Canada.

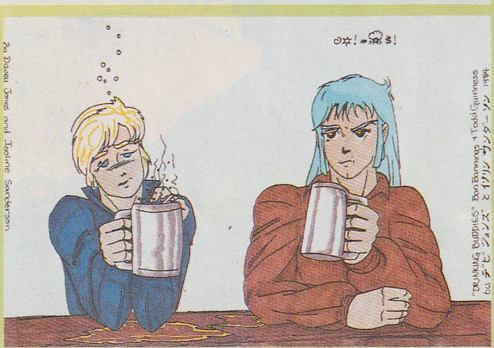




▲**Xabungle** *by* Ben Dunn,Texas.



▲**Raideen** *by* Mike Kanterovich (23), New Hampshire.



▲**Dunbine** *by* Davey Jones (23) , Virginia, & Isoline M. Sanderson (20), Maryland.

※キャプションは、作品名・名まえ・(年齢)、地名の順になっています。地名のあとに国名が入っていないのは、すべてU.S.A.です

MY ANIMAGE SPECIAL ISSUE

▶"ボトムズ"のイプシロン。ジュリー・フリューリッチのイラストです



from Julie Froelich(Age:29), Wisconsin.

I particularly like the SF-adventure type of series; Gundam, Votoms,Harlock,Urashiman, Gatchaman, Queen Millennia, etc. American media tends to have little Science Fiction offered. What is offered is often a clone of "Raiders of the Lost Ark" and "Star Wars", or a combination of the two. Japanimation has been a source of new stories for me, less predictable in plot.

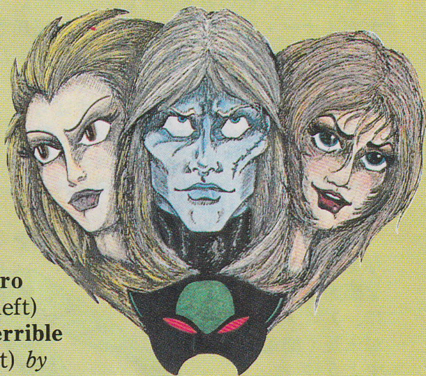
The fact that it is animation leaves much more to the viewer's imagination in my opinion.

(上の英文を意訳してみたのが、以下の文章——私はとくに、SF冒険物のシリーズが好きです、たとえば「ガンダム」などの。アメリカのテレビはほとんどSFを放送しようとしません。放送されたとしても、「レイダース・失われた聖櫃(せいひつ)」と「スター・ウォーズ」にそっくりな物か、あるいは、そのふたつを組みあわせたものになるのがオチ。日本のアニメーションは、だから、私にとって、予想をこえた展開で楽しませてくれる新しい物語の宝庫です。見る人の想像力にもっと訴えるのがアニメなのだ、といいたいのです。)

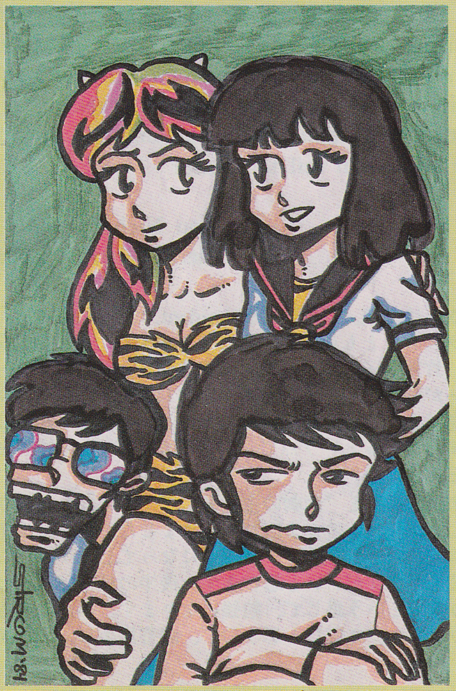
※Japanimation＝Japan＋animationの造語と思われる。日本製アニメのこと

▼下のイラストを描いたVaundaさんは、このほかに９枚ものイラストを送ってくれた（右側は「妖怪人間ベム」なのだ!!）





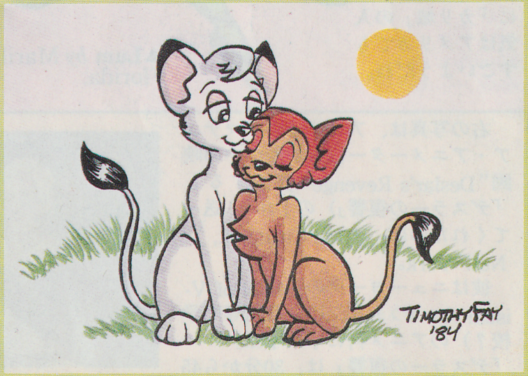
▲**Kyoshiro** (Daimos:left) **&The Terrible Trio**(right) *by* Vaunda K. Perry(33), Florida.



▲**Urusei Yatsura** *by* Frank Storm(20), Massachusetts.



▲**Marine Boy** *by* Barbara Edmunds(25), Wyoming.



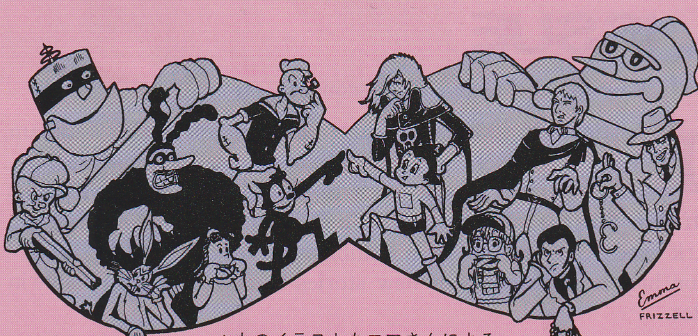
▲**Kimba** *by* Timothy Fay New England.

彼のメッセージの一部を訳すと……。

「日本人のマンガ家とアニメーターのなかで、手塚治虫氏がもっともすばらしいと思う。才能あふれた画家であることに加えて、手塚氏はすばらしい作劇術をもっている。彼は絵でじょうずに話をすすめるので、ことばの壁をこえることができたのだ。だから、私は日本語の読み方を知らなくても、彼のマンガを理解できる。手塚作品をアニメ化したシリーズはもちろん好きだし、彼の『火の鳥2772』は大好きなアニメ作品である」

(「ジャングル大帝」のイラストもMr. Fayによるもの)

Letter Room



▲上のイラストもエマさんによる

宮崎作品のアメリカ公開を期待する

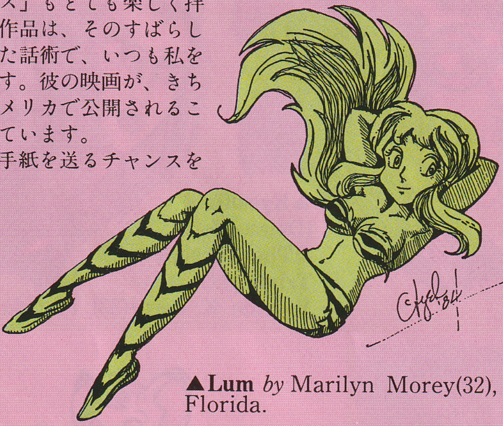
from Emma E.Frizzell (26), Houston, Texas.

私は3年前からアニメージュを買っていますが、あらゆるアニメ雑誌のなかでいちばん好きな雑誌です。とくにフロクとしてついてくる、ポスターやゲームやカレンダーが大好き。私がプロのアニメーターになってから（私はレーザーショウに使われているアニメ部分を描きました）、質の高いアニメに関心を持ってきましたが、数年前、日本のアニメに魅せられました。日本のアニメ産業は、よくできたストーリーのなかで活躍する、おもしろいキャラクターたちを生みつづけることができたのに、残念ながら、アメリカでは、今日、それがアニメに欠けている要素になっているのです。

ところで、私の好きなTVシリーズは「ルパン三世」、そして、キャラデザイナー・監督の分野では、宮崎駿氏です。だから、私のいちばん好きなアニメ映画が「カリオストロの城」だって当然のこと。「ナウシカ」も「名探偵ホームズ」もとても楽しく拝見しました。宮崎作品は、そのすばらしい作画と、手なれた話術で、いつも私を感動させてくれます。彼の映画が、きちんと訳されて、アメリカで公開されることを、私は期待しています。

アニメージュに手紙を送るチャンスを与えてくれたことを感謝するとともに、アニメージュが末長く繁栄しますように。

★宮崎作品、とくに「カリ城」の人気はアメリカでもすごいようだね。



▲**Lum** *by* Marilyn Morey(32), Florida.



右の写真は、アメリカのアマチュア・アニメーターたちが製作中の映画"Deslar's Revenge"(直訳すると「デスラーの復讐」）の1コマ。送ってくれたのは、Brian Cirulnick, New York。

彼はニューヨークのSchool of Visual Art（つまり、視覚芸術専門学校？）のアニメ科に学ぶ学生。

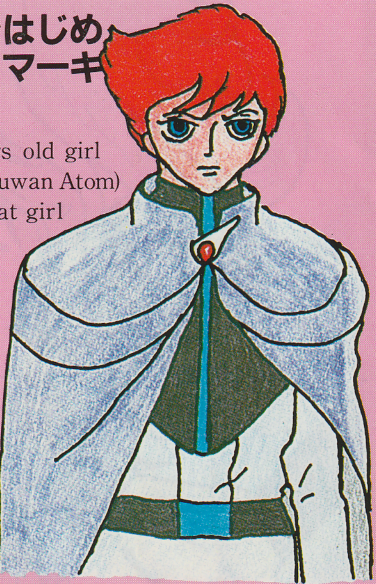
「デスラーの復讐」は、30分から45分ぐらいの作品になる予定で、'86年春をめざして製作中とのこと。

彼の手紙には、さらにこんなことも書いてある。

「ぼくは、日本におけるアニメのあり方が好きなんですが、アメリカ人によってアメリカのアニメーションでやられていることには同感できず、なんとか、この状況を変えたいと思っています。(編集部注・アメリカの状況について、彼は具体的になにも書いていない）ぼくはアニメの勉強の基礎に『ヤマト』を利用しているんです。それというのも、『ヤマト』の最初のふたつのシリーズは英訳されていますし、参考になるものが豊富にあるからです」

アメリカにも、アニメ界改革にもえるガッツをもった若者がいるんだね。日本のアニメーター志願者のみなさん、この心意気を忘れないでね。

アニメコミックスではじめて知ったジョミー・マーキス・シンの魅力



▶右のイラストもアン・ニコルスさんによるもの。カラーとモノクロの2点を〝念のため〟送ってきてくれた

In late 1963 a 9—years old girl saw Astro Boy (Tetsuwan Atom) and loved it. I was that girl and I still love Japanese animation. However, I usually do not care much about the robots and machines in the programs. It is the people who interest me, particularly the tragic heroes. I admire greatly the courage of such characters as Condor Joe of Gatchaman, Jō Yabuki of Ashita No Jō, and Jomy Marcus Shin of Toward the Terra. They fought on valiantly in spite of their physical handicaps and inner pain, even unto death.

Actually, I did not care much for Jomy when I first saw Toward the Terra. I liked Soldier Blue better, for he was obviously a tragic hero. I do not understand spoken Japanese, so it was not until I began to translate Toward the Terra anime comics (with much help from my teacher and others—I do not read Japanese very well) that I realized that Jomy, too, was a tragic hero. I never fail to be moved by watching Jomy enter the lair of his merciless enemy, Grand Mother. To think that Jomy could move into danger he could neither hear nor see, even with his telepathic powers, causes me to marvel.

With such beautiful workmanship and indomitable heroes, how could Japanese animation fail to please?

Ann Nichols (30),
Sierra Vista, Arizona.

★アン・ニコラスさんは30歳。C/FOの前President, つまり会長の座にいた。今回、イラストとともに彼女が送ってきてくれた手紙の全文を上に掲載した。竹宮恵子原作、恩地日出夫監督作品の「地球へ…」の主人公ジョミーが好きだという内容。全訳は112ページに掲載するので、そちらを見てください。作品のテーマや技術よりも、人間のドラマのほうに関心があるという点で、アメリカのファンの傾向を代表する意見だと思う。

"tragic hero"は直訳すると〝悲劇の主人公〟です。すこし大げさかなという気もしたけど、このまま訳しておきました。また、"physical handicaps"は〝肉体的障害〟ということになってしまうけれど、もうすこし軽い意味のほうがいいと思います。後半のほうは、英語らしい(？)表現の続出という感じで、勉強になります。単語そのものでむずかしいのは、2、3個だと思うので、辞書片手に、訳に挑戦してみよう。

MY ANIMAGE SPECIAL ISSUE

POEM

by Debra L. Vorgias(27),Florida.
(「わが青春のアルカディア」のマーヤにささげた詩)

MAYA

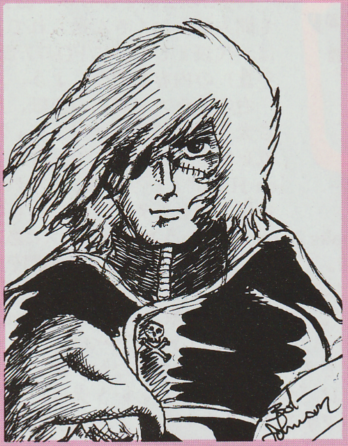
Across the Sea of Space,
I hear you calling me.
I close my eye, remembering other days…
younger days
of Lovers.
I hold you tightly in my embrace.
I feel your touch, your kiss
and my soul knows peace.

Across the Sea of Time,
I knew you and called you Love.
There was no present,
only a future filled with promise,
bright promise.
We were happy then, like children.
Yet, Death always followed,
sundering us, tearing us
from the peace we craved.

Across the Sea of Stars,
I yearn for you and the Love we shared.
One day, we will again be together,
the stars forever home.
Our home.
And we shall find peace.

My love, I will find you,
another time,
another place.
Together we shall find Arcadia.

さあ、こんどは英語ドッサリのレタールーム。メゲずに読もう!!



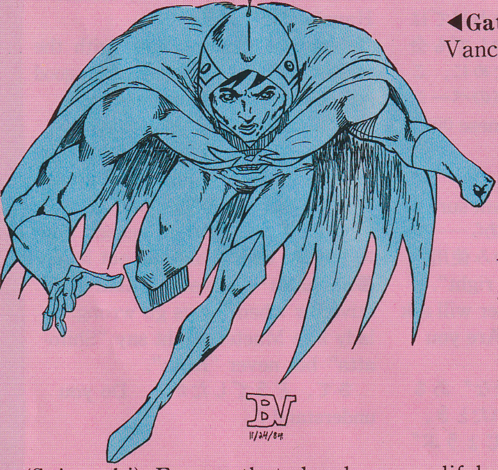
「ライディーン」でアニメファンに

from Bob Johnson(24)、California. (左のイラストも)

日本のアニメに興味をもったのは、とても小さいころからでした。'60年代には「鉄腕アトム」や「ジャングル大帝」「エイトマン」「マッハ　Go!Go!Go!」などの番組を見ていました。そのとき、これらが日本製アニメだと知ったのです。これが最初の関心のはじまりでした。この当時は実写もの―「ウルトラマン」や「ゴジラ」もみていました。

'70年代にはいると、ぼくの住んでいる地域のテレビ局が、日本の番組をサブタイトルつきで放送しはじめました。「ゴレンジャー」や「キカイダー」ではじまったその番組は、つぎに「勇者ライディーン」をはじめました。これはすごかった！　こんなものはアメリカのテレビにはなかった！　ぼくは毎週この番組をみて、とりこになりました。ぼくはサン・フランシスコにある日本文化センターにかよい、手に入るかぎりの本、レコード、おもちゃを集めました。大きな転換点は「キャプテン・ハーロック」がはじまったときです。日本のアニメにも、ロボット物以上の作品があることを教えてくれました。このとき、はじめてビデオを買いましたが、それも、見逃していた番組をみるためだったのです。

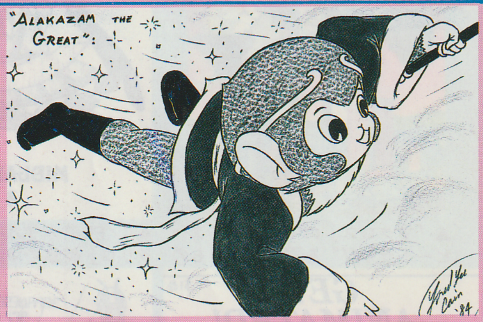
その後、C/FOに加入し、この仲間からビデオテープを集めることができました。そこで、友人たちと〝日本ファンタジーフィルムフェア〞を開催し、サン・フランシスコのベイ・エリア（編集部注：サン・フランシスコ市をのぞく、サン・フランシスコ湾ぞいの地域）で関心を高めようと活動しています。そこでC/FOのテープだけでは不充分だったので、他の都市のファンとも交換をはじめています。



◀**Gatchaman** *by* Brad Vancata(17), Florida.

子どもの心を刺激した「西遊記」

I first became interested in Japanese animation, when as a child in 1961, I saw an advertisement on television, for Osamu Tezuka's movie: 'Alakazam the Great' (Saiyu―ki). For me, that day began a lifelong enjoyment of Japanese animation. In it, Alakazam was everything a child (or child-at-heart), could ever wish to be: young, bold, handsome, heroic, with magic powers; able to fly and fight the biggest bullies and monsters. And his little sweetheart Didi was so pretty; she was so gentle & shy, that day; when I first saw her and heard her sing; for me it was "puppy love at first sight..!" (As another little kid once described love: "—it all hurt so sweet!" (↗)



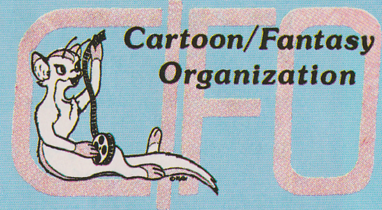
(↘) The feeling that artists like Go Nagai; Osamu Tezuka; Hideko Mizuno; and Riyoko Ikeda put into their work, touches all of your deepest feelings (from joy to heartbreak). And their art makes pepole "look" as you "wish" they (and you) really did.—— If God ever wants someone to help "design" people for any worlds he might have planned, I'd like to submit eir names at the top of the list.

Fred Lee Cain,
Topeka, Kansas.

☆子ども時代に「西遊記」(東映動画・昭和35年製作。手塚治虫氏は原案など）をみたことが、日本のアニメのファンになるきっかけだったというケインさん。年齢は書いてなかったけれど、たぶん30代のはじめではないかと思います。この手紙の翻訳は112ページにのせてありますが、ちょっとわかりにくい部分があるかもしれませんね。"puppy-love"は、直訳すると〝子どもっぽい恋〞ということですが、日本風にいえば〝あこがれ〞というところかな。だれしも、こういう経験がありますね。

Fanzines

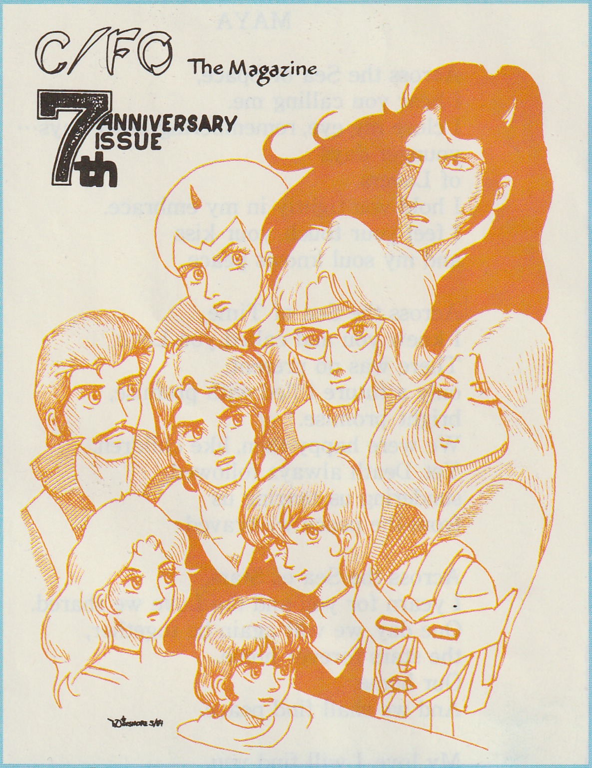
アメリカの同人誌は、とても字が多い。読むのにひと苦労したけど、内容はユニーク。



▲C/FOのシンボルマーク

C/FOの会誌をはじめ、C/FO各支部の作る同人誌もたくさん送られてきた。ここでは、代表として、C/FOの7周年記念号('84年夏）の内容を紹介しよう。

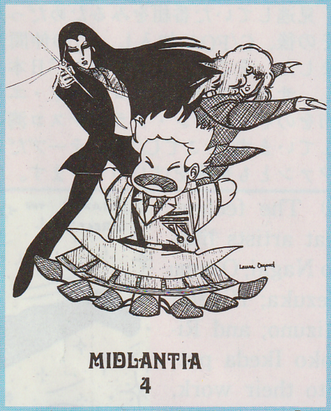
右のイラストがその表紙。AMとほぼ同じ大きさの「アクロバンチ」特集号だ。表紙をひらくと、まず"The Touch of an Alien Hand"という小説。「アクロバンチ」の登場人物をモチーフにしたもの。さし絵入りで8ページもの大作。つぎに"Books Nippon"というロサンゼルスにある日本のアニやコミックを売っている書店の広告。（アメリカ最大の日本アニメ部門を持っている、と書いてある。ちなみにAMの値段は5ドル35セント≒約1400円と高い！）つづいて「エイトマン」のコミック版"8th Man"。これは毎号連載。つぎが"Manga Mania"という日本のマンガ論。この号では「Dr.スランプ」と「うる星やつら」「ルパン三世」がとりあげられている。内容よりは、どういう形で連載されたか、などの紹介が中心。たとえば「高橋の『うる星やつら』は『少年サンデー』という男の子の雑誌に連載されていたが、その想像力は女の子のファンもとりこにした」というぐあい。つぎが"Japanese 001"という日本語講座。これは下のかこみで紹介しよう。つづく"Anime Songbook"はこの名のとおり、日本のアニメソングを対訳で紹介するページ。日本語の歌詞を左側にカタカナで表示。右側にはその英訳が。ちなみに、メロディーにのせて、この英訳詩をうたってみたところ、まったくあわなかった。（あたりまえか……）。この号では松本アニメ特集として、「ヤマト」「999」「1000年女王」などが。このほか「ルパン三世」のデータバンク――これは新シリーズのサブタイトル、ストーリー、サブキャラなどの紹介――や、各支部の活動報告、各メンバーからの手紙などで構成されている。誌面作りとしては、やはりアメリカの雑誌をモデルにしているせいか、イラストはカット程度で、文章が圧倒的に多いのが印象的。



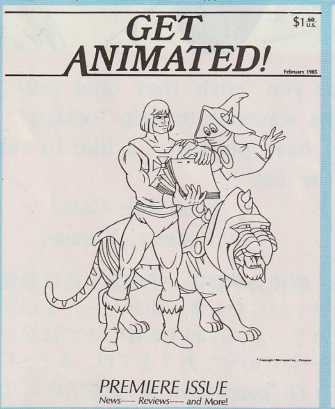
▲表紙は「アクロバンチ」(by Wendy Dinsmore)



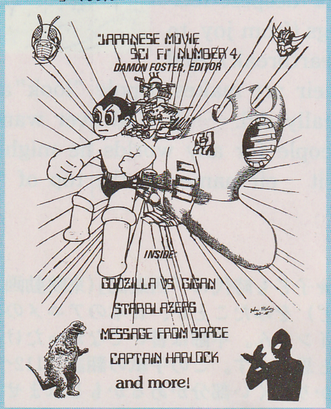
▲「マクロス」のマンガ版。"ブービートラップ"を再構成したもの



▲C/FOアメリカ中央支部の会誌。「パタリロ」特集でマンガもある



▲C/FOのFred Patten氏も参加する本格的アニメ技術誌の創刊号。日米加、それにヨーロッパのアニメ会社のリストなども掲載されている



▲Damon Foster氏の作る"日本の映画とSF"誌。特撮もあつかう

やさしい日本語講座

さて、C/FOのメンバーは、みんな日本語が大得意！　というわけではない。そこで、なんとか少しでも会話の内容が知りたい人のために、こういうやさしい日本語講座のページもあるのだ。題して"Japanese 001"、訳はEddie Wood。

内容をみてみよう。

Ara—"Oh My!"A pleasant surprise. Used only by women(あら――"あら！"喜びの表現。女性のみ使用)

Daijobu—"safe" or "all right". If Tetsuro falls down, Maeter will ask him, "Daijobu desuka?" "Are you all right?"

(だいじょうぶ――"安全な"あるいは"無事に"。鉄郎が倒れたとき、メーテルは彼に聞く"だいじょうぶですか")

こういうやさしい日本語が約60個、アルファベット順にならんでいる。ぼくからみれば逆に英語の勉強になる。では、以下、日本語訳をつけないので、Tryしてみてください。

●Isoide—"Hurry" 999is pulling out of the station, Maeter and Tetsuro are running to catch it, the Conductor leans out the window,"Isoide! Hayaku!"

●Kisama—It means"you" with the undertone "you dirty rotten no-good son-of-a……" If Emeraldas calls you "Kisama", say your prayers.

●Kuso—Literally "shit" A strong expletive. Few woman will use it.

●Naruhodo—"I understand...I see.... I get it..." Said more to oneself than to anyone else. Thinking out loud.

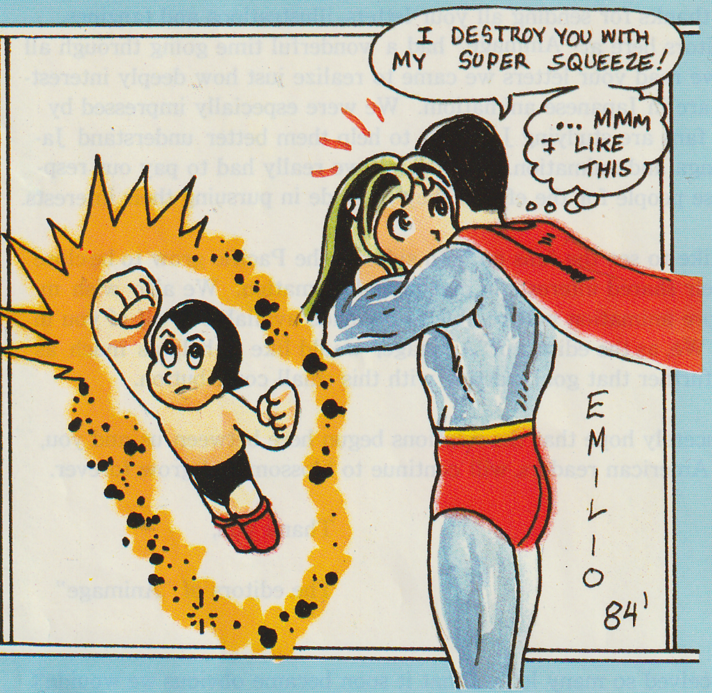
●Shimatta—"closed" A mild expletive for when things go wrong. A lady like Maeter might say "Shimatta" but never "Kuso".

さて、どうでしたか？　Do you understand？

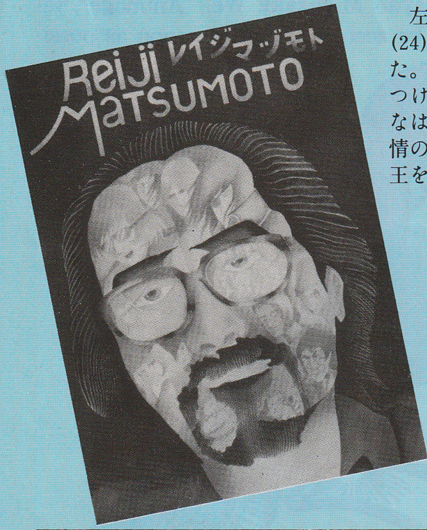
※アナグラムの答え
●Crusher Joe
●Final Yamato
●Andromeda Stories
●Castle of Cagliostro
●Space Adventure Cobra
以上でした。

MY ANIMAGE SPECIAL ISSUE

And…



最後に、ユニークなイラストを2点。〝アメリカ版パロスタ〟というほどでもないけれど、上のイラストはEmilio Soltero (19) くんによるもの。スーパーマン「こんなに強くだいて、こわれないかな」ラム「この強さが好きだっちゃ」。ラムちゃんの大ファンだという彼からでした。



左のイラストはLuke Menichelli (24), Pennsylvannia から送られてきた。自作のイラストを印画紙に焼きつけたもの。彼はカタカナとひらがなは読めるが、「やっぱり微妙な感情のひだは翻訳できない。1000年女王を訳そうと思っているけれど、大変です」と書いている。アメリカのファンにとって、いま最大の要求は、

「日本のアニメを勝手に作りかえてしまわないでほしい。アメリカ人はどうもマンガやアニメを小さな子どものためだけのもと考えすぎている」

ということ。日本のアニメをなんとか〝オリジナル〟の形で放送してほしいという声が、圧倒的に多いそうである。

▼C／FO・LAのチラシから



C/FOの各支部はそれぞれ独自に活動をしている。その内容はAM'85年1月号などでも多少お知らせしたが、もっと日常的でささいなことをふくめて、その活動ぶりをお知らせしよう。

まずはNew York支部の最新報告から。

——第52回の月例上映会は90人の参加者を集めておこなわれました。これはC/FOのどの支部でもなかった最大のものです。この日は「マクロス」第36話の上映が、NY支部の代表Patricia Maloneの解説によっておこなわれ、大好評でした——こんな内容の報告が、次回上映予告のflier(チラシ)の下のほうに印刷されている。ただし上映会は、NYの場合は有料で、メンバーが1ドル50セント、非メンバーは2ドル50セントとなっている。

アットホームな感じのするのはC/FO, Florida支部の会合。ビデオ上映会はいつも会員宅で開かれていて、ビデオ上映のあとはいつもパーティになるようだ。「前回"YAKITORI"をたべられなかった人は残念でした」などというおたよりがチラシに書かれている。

各支部とも、自分たちのサークル名や、マスコットを作っている。FL支部の場合はCFO^2、マスコットはすごいグラマーのSonya (下のイラストがそれ)。NY支部のマスコットはAnimaというとぶネコ(?)、Toronto(Canada)支部のマスコットはBinaryというダンバイン風のヘルメットをかぶった2頭身のうさぎ。C/FOそのもののマスコットは、Fantaというネコ(上のイラスト、アラレちゃんの左側がそれ)。

C/FOのメンバーは、全体的に年齢が高く、下が17歳ぐらいで、上は40歳代のメンバーもいる。年齢の高いメンバーは、子ども時代に「鉄腕アトム」を見て、後にそれが日本製アニメだと知って、日本のアニメのファンになった人々が多い。若いファンは「ヤマト」を見て、という人が多い。日本では、こんなに年齢差のある人々が、ひとつのファンクラブを作ることは考えられない。アニメへの愛があるなら年の差なんて、ということか。



◀C/FO・フロリダ支部のマスコット

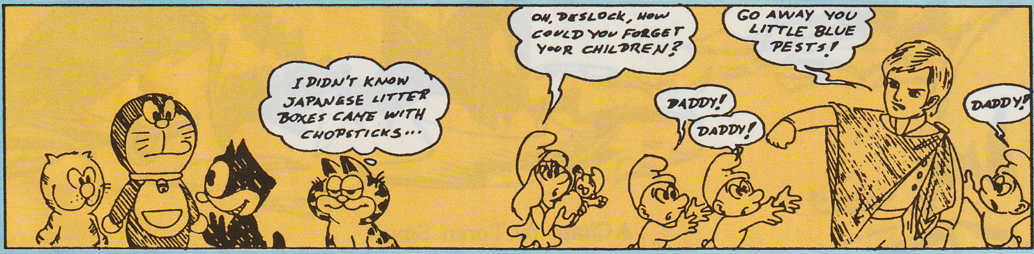
パズルコーナー "MOVIE ANAGRAMS"

"Anagram"=アナグラムとは、文字のナゾナゾといえばいいか。たとえば、WARSIN OMEN,この文字をばらばらにして、意味のあることばに作りかえる。(これを組みかえると、MARINE SNOW——「マリンスノーの伝説」の英語タイトルになる)

やはりC／FOの7周年記念号から、このアナグラムコーナーを紹介しよう。すべて日本のアニメーションの英語タイトルである。出題者はEd Noonchester氏。ヒントを書くので、このナゾときに挑戦してみよう。不必要な文字や、2度使う文字があるから注意してね。

- HE RUSO JERC (アルフィンという女の子が登場)
- TONI YAFMALA (何度も映画化され、これが本当の最後といわれたが……)
- SEAM STORE ANDROID (竹宮恵子原作で、24時間テレビのなかで、スペシャルとして放映された)
- ALI CROSS CATTLE GOOF (宮崎駿作品といえばもうこれっきゃない……)
- CAPS BRAVE DANCETOUR (アメコミ的感覚の人気マンガをアニメ化した出崎作品)

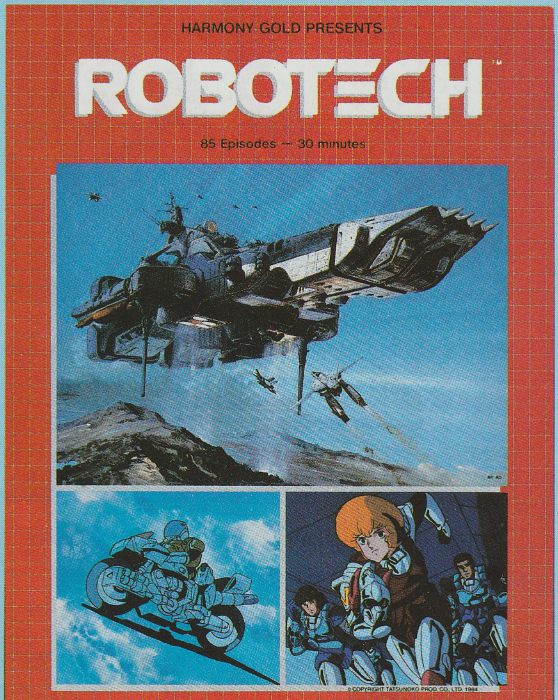
※答えはとなりの10ページ「やさしい日本語講座」の最後にあります。



▲C／FO7周年記念号から。パロディマンガ。「日本のゴミ箱にハシがついてるとは知らなかった……」(左)「おお、デスラー、あなたの子どもたちを忘れてはいないでしょうね?」(右)

NEWS

TVシリーズ「マクロス」アメリカで放映決定



TVシリーズの「マクロス」がいよいよアメリカで放映されることになった。ニューヨーク、サン・フランシスコ、シカゴなど、全米で40～50局になる予定。アメリカ版タイトルは"Robotech"。しかし、上のパンフを見てもあきらかなように「マクロス」だけでなく「モスピーダ」「サザンクロス」が３本でひとつの番組となる。日本では考えられないこと。ストーリーもキャラもちがう３本が「ロボテック」というタイトルのもとに、月曜日から金曜日までオビ番組として放映される。どうなっているの？　といいたいが、各話ごとにナレーションをつけて、なんとか処理するらしい。
「アメリカ人にとって、この３本のキャラは見わけがつかない」(タツノコプロ国際部・成嶋氏) という要素もあるらしいが、アメリカのファンの反応を聞いてみたいね。

MESSAGE

TO OUR AMERICAN AND CANADIAN READERS:

Many thanks for sending all your letters, illustrations and fanzines. We, the editors here at "Animage," had a wonderful time going through all of it. As we read your letters we came to realize just how deeply interested you all are in Japanese animatiom. We were especially impressed by how many fans are studying Japanese to help them better understand Japanese manga and animation. So, we felt we really had to pay our respects to these people for the efforts they've made in pursuing their interests.

We'd like to see the fans on both sides of the Pacific grow to be close through their shared interests in manga and animation. We also wish more and more animation will be able to be made available to all of you in the future. We, as the editors of "Animage," would like to help as much as we can to further that goal starting with this small contribution.

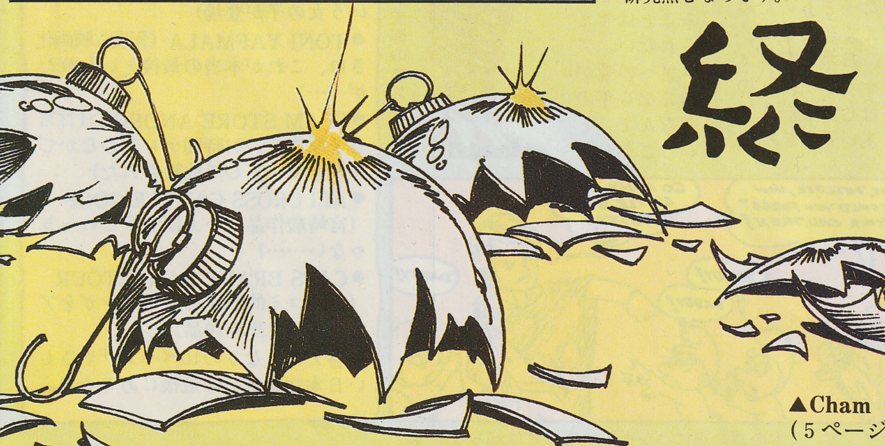
We sincerely hope that the relations begun here between us and you, our North American readers, will continue to blossom and grow forever.

Thank you,

The editors of "Animage"

P/S We received so many letters that it soon became obvious we wouldn't be able to include all of your contributions on these pages. If we happened to miss yours, please accept our apologies.
P/S, II As the producer of the movie "The Warrior of the Wind" (Kaze no Tani no Nausicaä) directed by Hayao Miyazaki, We, "Animage", really hope this movie will be able to be seen in U.S.A. as soon as possible.

▼この〝終〟の文字は、C／FOのニューヨーク支部が送ってくれたチラシからとったもの。日本のアニメ番組の最後に出るこのkanjiのタイトルについて、いろいろと詳細な説明をしている。一部を訳すと、
「この左の部分（つまり、イトヘン）は、まん中でよじれ、はしがすり切れたロープをかたどっている……」というぐあい。研究熱心なのです。





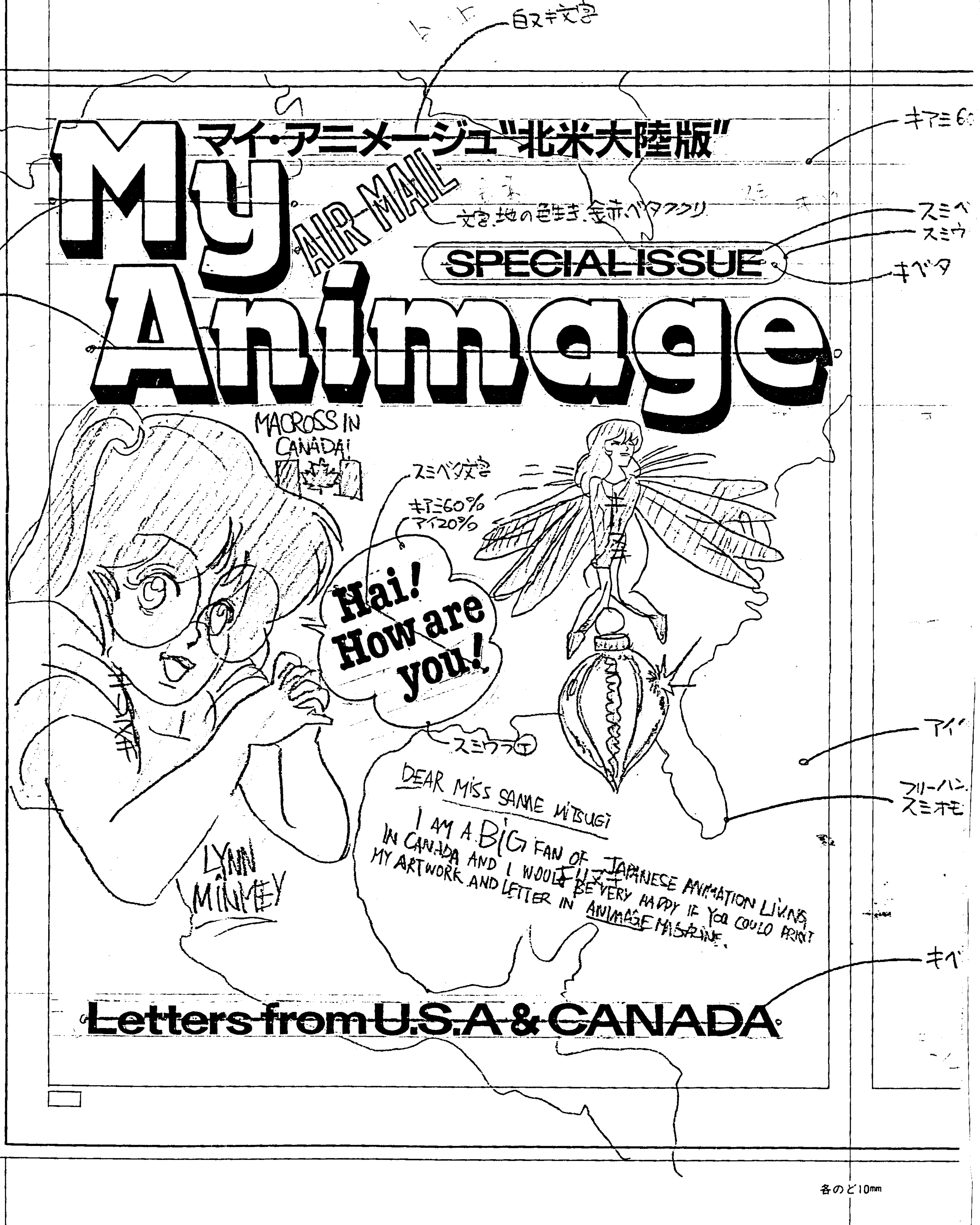
▲**Cham** *by* Toren Smith
（５ページの扉と同じSmith氏の作品。みくらべてみてください）

special thanks to **Frederick Patten, Adam Kauffman & Misao Kuze.**

406mm

203mm

Animage



各のど10mm

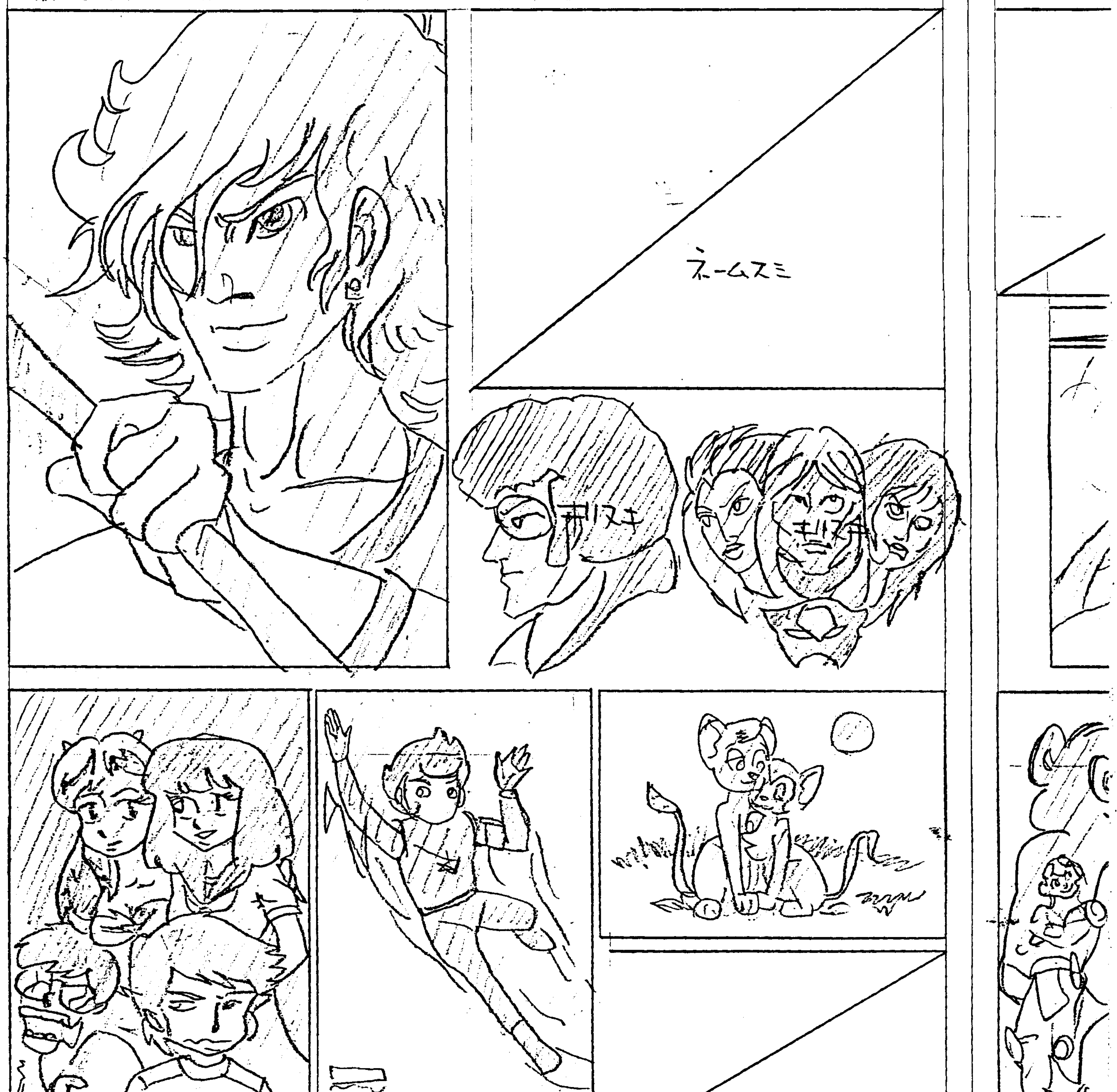
406mm

203mm

Animage

スミベタ文字

MYANIMAGE SPECIAL ISSUE



各のど10mm